

## アグリビジネス振興プログラムのご紹介

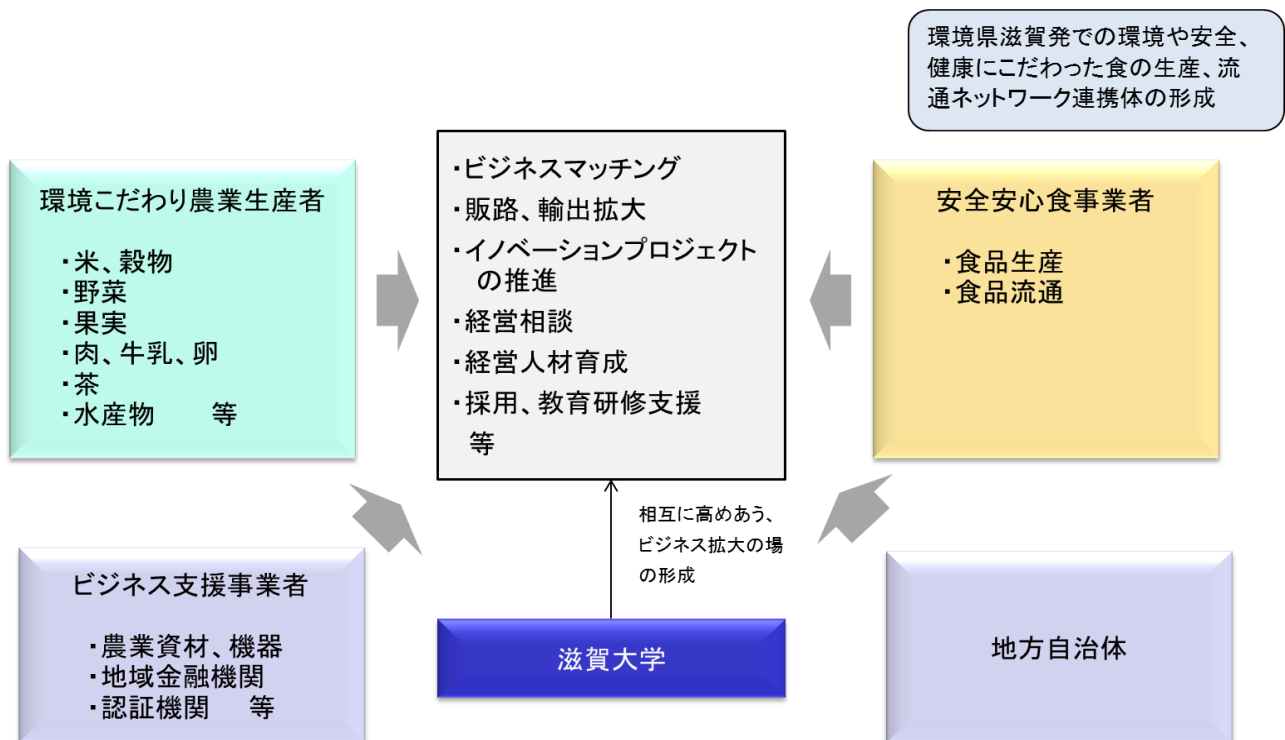
### 1. 趣旨

今後の成長産業の一つとして、アグリビジネスが注目されている。アグリビジネスとは、農林漁業を中心に加工、流通を含めた産業群をいう。農林漁業の生産額は約8兆円であるが、加工、流通を含めると約100兆円の市場となる。景気低迷が続く中で、企業は新たな事業を展開する市場を求めている一方で、農業市場はこれまでビジネス的な視点での運営が遅れ、耕作放棄地の再生や地域農業の活性化といった課題を抱えている。そこにビジネスの発想を持ち込み、新しい技術やノウハウを使うとともに、生産、加工、流通の連携を強めていこうというものである。

農林水産省も「六次産業化支援法」を策定し、将来の成長産業となるべく農林漁村の6次産業化を強力に支援している。滋賀県は都市近郊地域としてアグリビジネスへのポテンシャルは高い。アグリビジネスは、製造業、サービス業を補完する産業としておおいに期待される。

したがって、本プロジェクトは、1、2、3次事業者のネットワークを構築し、さまざまな連携を通じて、滋賀県及び周辺地域におけるアグリビジネス（農林水産物の生産、加工、流通や農山村地域におけるツーリズム、再生可能エネルギーの開発などを含むビジネス）の推進を支援することを目的としている。

図表1 滋賀アグリビジネスネットワーク



## 2. 平成 28 年度の取組状況

## 1) 訪問調査の実施

農業法人や農業及び食関連企業等経営者7社への訪問ヒアリング調査(セミナー受講も含む)を実施し、現状の課題と連携ニーズを把握した。昨年度までの74社を加えると、81社への訪問ヒアリングを実施したこととなる。

図表2 訪問調査実施企業

NO	種別	企業、団体名	品目	所在地
1	生産法人・団体	おもや(NPO 縁活)	野菜	滋賀県栗東市
2	生産法人・団体	マノーナファーム、資生園	葉物野菜、しいたけ	滋賀県大津市
3	旅行業	(株)ビーエスシー・インターナショナル ツールドラック事業部	農村体験サービス	滋賀県大津市
4	新エネルギー 事業者	匠磋メガソーラーシェアリング	新エネルギー	千葉県匝瑳市
5	支援団体	株式会社ファームアライアンス	GAP 取得支援	東京都
6	支援団体	全国農福連携推進協議会	農福連携支援	東京都
7	大学	北海道大学農学部	ロボット農業	北海道札幌市

## 2) 滋賀大マルシェ(農産物直売市)の実施

「環境こだわり農業」や「環境こだわり農産物」について、特に若い世代に向けての認知を高めることを目的に、滋賀大マルシェを下記のとおり実施した。毎回、10店舗程度が出店し、多くの学生、教職員が生産者達との交流を楽しんだ。

図表3 滋賀大マルシェ(農産物直売市)の実施概要

<p>■開催日時: 平成29年6月2日(金)、7月7日(金)、10月6日(金)、11月10日(金) 11:30~13:30</p> <p>■場所 : 滋賀大学彦根キャンパス生協前広場</p> <p>■対象 : 滋賀大学学生、教職員、周辺住民</p> <p>■滋賀大マルシェの理念</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一. 学生や消費者に、環境や健康にこだわった農業や農産物を理解してもらう場です</li> <li>一. 商品の価値を伝える場です</li> <li>一. 知ること、見ること、買うことが楽しい場です</li> <li>一. さまざまな商品や売り方の試行実験の場です</li> <li>一. 学生も運営に関わり、生産者や農業ビジネスを学ぶ場です</li> </ul> <p>■出店者数: 各回10団体以内、農業団体、直売所、農業法人、企業、農家グループなど(滋賀県外からの参加も可)</p> <p>■出店物 : 環境こだわり農産物(認証取得済)、もしくは減農薬、有機農産物、同加工品、環境に配慮した商品。商品数は問いません。</p> <p>■出店料 : 無料(売上は出店者にすべて帰属)</p> <p>■出店方法: 大学よりテント、テーブルを用意、出店者は自由にディスプレイ</p> <p>■関連イベント: 利き野菜、アカペラコンサート、農家と語る会を随時実施</p> <p>■主催 : NPO法人彦根景観フォーラム・滋賀大学社会連携研究センター</p>
--

## 滋賀大マルシェの様子



会場は滋賀大学生協前広場



毎回利き野菜イベントを実施

## 3) 滋賀大うちごはん農園の実施

「滋賀大うちごはん農園」活動は、自炊生活を楽しみたい滋賀大学生等に対し、共同で環境こだわり農業を実践し、自炊のレシピを学び、生きる力を高めてもらうことを目的としている。本活動は、都市型農園のビジネスモデルの試行としても位置付けている。農園は、滋賀大経済学部構内の遊休地にある。学生が農と食を実践的に学ぶ本活動は全国でも例がない取組である。

図表4 滋賀大うちごはん農園の実施概要

- |            |  |
|------------|--|
| ■場所        | : 滋賀大学キャンパス内の特設農園と四番町スクエアのキッチンスタジオ   |
| ■対象        | : 定員20名(学生、職員等、サークル仲間や家族での参加も可能、他大学の方も参加可能)<br>・自分で畑を耕し、野菜を作りたい方<br>・自炊生活を楽しみたい、うちごはんのレシピを増やしたい方<br>・余暇を健康的に楽しみたい方 |
| ■対象        | : 毎月1回菜園プログラムを実施、季節ごとに料理プログラムを実施   |
| 【菜園プログラム】  | キャンパス内の農園にて共同で野菜を栽培します。作付け計画、土づくり～収穫までを菜園インストラクターの指導のもとに有機栽培で実践。そのまま畑で料理します。                                       |
| 【料理プログラム】  | 季節ごとに、自分達でつくった採りたて野菜を使って、野菜ソムリエの指導のもとに本格的に調理&試食。自炊のための調理技術、知識を学びます。  |
| ■費用        | : 料理プログラムは実費を徴収  |
| ■インストラクター: | 西村 健之(菜園インストラクター、レイクサイドビジュー代表、滋賀大学客員研究員)<br>立花 尚子(シニア野菜ソムリエ、(株)バナナハート代表、滋賀大学客員研究員)<br>石井 良一(滋賀大学社会連携研究センター教授)      |
| ■主催        | : 滋賀大学社会連携研究センター   |

図表5 滋賀大うちごはん農園スケジュール

日程	プログラム
4月22日(土)	・オリエンテーション、畑づくり、夏野菜の定植、畑でごはん(10:00～13:00)
6月17日(土)	・共同作業、畑でごはん(10:00～13:00)
8月26日(土)	・共同作業、畑でごはん(10:00～13:00)
10月21日(土)	・共同作業、畑でごはん(10:00～13:00)
12月16日(土)	・畑じまい(10:00～11:00)、みんなでごはん(四番町キッチンスタジオ、11:00～14:00)

## 4) 滋賀県における農林水産業新ビジネスの創造

滋賀県では、平成27年秋に滋賀の農林水産業にかかる新しいビジネスを創出するため、産業の枠組みを超えた連携を図る「滋賀県農林水産業新ビジネス創造研究会」(所管:農政水産部農業経営課)を発足した。この研究会では、交流会、セミナー、プロジェクト活動等を通じて、新しいビジネス創造を目指した活動を展開することとしている。

今年度は全体会議への参画、助言に加えて、「滋賀県インバウンド農村体験ビジネス研究会(NoraShiga研究会)」を立ち上げ、滋賀県の助成をいただき、活動を展開した。活動の概要は次のとおりである。

図表6 滋賀県インバウンド農村体験ビジネス研究会(NoraShiga 研究会)の概要

<b>目的</b> 今後拡大するインバウンド需要を受け止め、滋賀県全域において、受け入れ体制の整備や魅力ある体験プログラムの提供を通じて、農水産業体験ビジネスを活性化すること	
<b>メンバー</b>	
氏名	所属
研究リーダー 岡本 弘二	(株)日本旅行草津支店
コーディネーター 石井 良一	滋賀大学社会連携研究センター
池本 佳子	公益社団法人びわこビジターズビューロー 海外誘客部
川口 洋美	(株)ビーエスシー・インターナショナル ツールドラック事業部
川端 均	JAおうみ富士 ファーマーズマーケットおうみんち
坂井田 智宏	公益社団法人 びわ湖高島観光協会
地藤 久美子	一般社団法人 お茶芽Dream朝宮
辻川 作雄	(株)黒壁
西村 和久	滋賀銀行
福本 修一	一般社団法人 近江日野交流ネットワーク(事務局 日野町商工観光課)
増田 隆	NPO 愛のまちエコ倶楽部
八木 完二	RDR 有機ファーム
食アドバイザー ダレン・ダモンテ	だもん亭オーナーシェフ

活動経緯

毎月1回程度の研究会、京都おぶぶ茶苑への先進事例視察、高島、朝宮での外国人モニターツアーを実施した。

	9	10	11	12	1	2
研究会	○ 9/27	○ 10/27	○ 11/30	○ 12/19	○ 1/30	
先進事例視察					○	
モニターツアー					←→	
報告会						○ 2/20

コンセプト及びツアー要件

- 顧客： 個人、小グループの海外富裕層
- コンセプト： eco-first
- 共通要件

【食に関して】

- ・環境こだわり基準に満ちた農産物、または在来・希少種の野菜(魚・肉)を使う
- ・地域の伝統食や、美味しい調理法(調理体験方法)で提供され、しかも外国人の口にも合う工夫がされている
- ・食べてみたい衝動を誘う(美味しそう、楽しそう)

【文化・環境プログラムに関して】

- ・ここにしかない資源、取組であり、外国人に興味を持ってもらえるストーリーがある
- 日程： 日帰り
- ・午前中集合、昼食を挟んで、農林漁業、文化体験を楽しみ、午後解散。前日、当日宿泊先の提案も含む。

モニターツアーの様子

「高島・豆腐づくりと醤油しぼり」ツアー



会場は棕川集落の茅葺き民家



地元産の大豆から豆腐づくり

「朝宮・日本茶の源流」ツアー



朝宮に広がる美しい景観を満喫



茶そば、ちらしずしで昼食

今年度は、各事業者から 11 ツアーが提案され、そのうち 2 ツアーについて外国人モニター調査を行い、継続的なビジネスの可能性について評価頂き、内容についての助言を頂いた。いずれもおおいに可能性がわかったが、さらに内容、運営方法、移動手段などについて課題があることも明らかになった。

次年度は、その他のツアーについても内容の吟味を行うとともに、さらに参画する事業者の拡大、プロモーションのあり方等について検討を進めたい。

(文責 教授 石井 良一)